

この1年で、群馬はこう変わった！
山本県政 5つの重点政策

3つの課題と5つの重点政策

課題①
幸福度の向上

A 県GDP・県民所得の拡大！
新たな角度から、中小企業・農林水産業・観光業などの経営を支援！

B 安心を支える社会基盤整備！
感染症・災害への対応と最新の教育のため、
100年先を見据えた投資を決断！

課題②
認知度・魅力度の
改善

C 新たな群馬の誇り育成！
県の魅力を再発見するブランディング戦略と、
トップセールスによる情報発信をスタート！

課題③
財政の健全性確保

D 官民連携による行財政改革！
民間の知恵とリソースを活かした、
「オール県民参加」の県政をスタート！

E 県政の透明化・オープン化！
知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！



A 県GDP・県民所得の拡大！

新たな角度から、中小企業・農林水産業・観光業などの経営を支援！

① 県経済を支える中小企業の経営を全力で支援

② 「G-アナライズ&PR」で、群馬製品のブランドを強化

③ 首都圏・海外での情報発信で、誘客を促進

④ 「新たな客層」を開拓し、観光産業の拡がりをバックアップ

⑤ 県経済を支える外国人材との共生「群馬モデル」を構想

A 県GDP・県民所得の拡大！

新たな角度から、中小企業・農林水産業・観光業などの経営を支援！

① 県経済を支える中小企業の経営を全力で支援

○ 「新型コロナウイルス感染症対応資金」の創設

- ・ 過去最大の融資枠(2,000億円)
- ・ 全国で最も手厚い7年間の利子補給



○ ストップコロナ！対策認定制度

- ・ 業界団体等が作成したガイドラインに基づき、感染症対策を行った小売や飲食サービス業等を営む県内の中小・小規模事業者を県が認定

A 県GDP・県民所得の拡大！

新たな角度から、中小企業・農林水産業・観光業などの経営を支援！

② 「G-アナライズ&PR」で、群馬産品のブランドを強化

○群馬の農畜産物の成分を分析&発信し、販路開拓につなげる



第1弾 やよいひめ



冴えわたる甘さと味の濃さ

第2弾 ぐんまの豚肉



あきないおいしさ元気回復

A 県GDP・県民所得の拡大！

新たな角度から、中小企業・農林水産業・観光業などの経営を支援！

③首都圏・海外での情報発信で、誘客を促進

○eスポーツによる地方創生の推進！

- ・ eスポーツ・新コンテンツ創出課の新設
- ・ eスポーツ情報の発信、企業向けセミナーの開催

○中国最大級のSNS「微博(Weibo)」を活用した 情報発信、プロモーション

- ・ 相互協力の覚書締結（アジア初）
- ・ WEIBO Account Festival in Japan 2019
- ・ インフルエンサーによる県内温泉地等の視察



A 県GDP・県民所得の拡大！

新たな角度から、中小企業・農林水産業・観光業などの経営を支援！

④ 「新たな客層」を開拓し、観光産業の拡がりをバックアップ

- 県民向け「愛郷ぐんまプロジェクト～泊まって！応援キャンペーン～」の実施
- ・ウィズコロナ時代に対応したマイクロツーリズムの実現

群馬県民限定

愛郷ぐんまプロジェクト
「泊まって！
応援キャンペーン」

対象宿泊施設で、
1人1泊 6,000円(税抜)以上の宿泊

↓

1人1泊 5,000円を補助

期間 7月31日宿泊分まで



実績：**27**万人泊（見込）

A 県GDP・県民所得の拡大！

新たな角度から、中小企業・農林水産業・観光業などの経営を支援！

⑤ 県経済を支える外国人材との共生「群馬モデル」を構想

○ 「多文化共生・共創群馬モデル」の作成

- ・ 今後の外国人材の受入れと共生について、本県の政策の方向性を示すコンセプト
- ・ オール群馬の態勢で「多文化共生・共創県ぐんま」を創り上げていくことを宣言

【取組内容】

- ・ 外国人との新たな共生推進会議
- ・ 外国人材との共創を積極的に取り組む企業等の認証制度の創設を検討
- ・ 多文化共生・共創推進条例（仮称）を制定予定



B 安心を支える社会基盤整備！

感染症・災害への対応と最新の教育のため、100年先を見据えた投資を決断！

⑥ 県の医師不足に立ち向かう

「ドクターズカムホームプロジェクト(DCHP)」を始動

⑦ 本州最大の養豚県である本県へのCSF侵入を防御

⑧ 未知の新型コロナウイルスに対し、

新たな医療体制・情報発信体制を構築

⑨ 県内学校のICT対応を目指し「教育イノベーション」を始動

⑩ 「県土整備プラン」の舵を切り、レジリエンスNo.1の構築をスタート

⑪ 「5つのゼロ宣言」で、SDGsのトップランナーへ

B 安心を支える社会基盤整備！

感染症・災害への対応と最新の教育のため、100年先を見据えた投資を決断！

⑥県の医師不足に立ち向かう「ドクターズカムホームプロジェクト(DCHP)」を始動

○ドクターズカムホームプロジェクト

- ・知事と若手医師等との意見交換会（2回）
- ・「ぐんまの臨床研修病院紹介動画」（全14病院）公開
- ・修学貸与資金の拡充



ぐんまの臨床研修病院紹介動画



知事と若手医師等との意見交換会

B 安心を支える社会基盤整備！

感染症・災害への対応と最新の教育のため、100年先を見据えた投資を決断！

⑦本州最大の養豚県である本県へのCSF侵入を防御

- 市町村と連携して、養豚農家に手厚い支援（防護柵設置補助など）
- 長野県、埼玉県境で関係車両の消毒実施
- 国と連携し、ワクチン接種の第一陣に



ワクチン接種



車両の消毒作業

B 安心を支える社会基盤整備！

感染症・災害への対応と最新の教育のため、100年先を見据えた投資を決断！

⑧未知の新型コロナウイルスに対し、新たな医療体制・情報発信体制を構築

○PCR等検査体制の強化

- ・帰国者・接触者外来28カ所、PCR検査センター9カ所
- ・最大検査能力450件／日（民間検査機関等含む）

○受入医療機関の病床確保

- ・運用病床 コロナ以前：52床 → 307床

○重症患者受入体制強化

- ・人工心肺装置（ECMO）、人工呼吸器を増設
- ・両機器を扱うための研修を実施

○新型コロナウイルス感染症対策サイト開設

- ・県HPに新型コロナウイルス感染症対策サイトを開設し、一元的に情報発信



PCR検査センターでのドライブスルー方式の検体採取

B 安心を支える社会基盤整備！

感染症・災害への対応と最新の教育のため、100年先を見据えた投資を決断！

⑨県内学校のICT対応を目指し、「教育イノベーション」を始動

○県立高校、県内市町村立の小・中学校における1人1台PC整備

- ・ 児童・生徒一人一人に対して個別最適化された教育の推進
- ・ 新型コロナウイルス第2波・第3波に備えた子どもたちの学びの保障
- ・ 今年度中に、県立高校、33市町村立小・中学校で1人1台PCを実現

(2市は、3年計画で整備)

○教育イノベーション・プロジェクトの開始

- ・ ぐんまの未来を切り拓く新しい学びの実現

STEAM教育、ICTリテラシー向上、プログラミング教育、
学校現場DX、教員指導力向上などの推進



B 安心を支える社会基盤整備！

感染症・災害への対応と最新の教育のため、100年先を見据えた投資を決断！

⑩ 「県土整備プラン」の舵を切り、レジリエンスNo.1の構築をスタート

○ 『群馬・気象災害非常事態』を宣言

- ・ 災害に強く持続可能な群馬県を構築するため、緊急的、集中的に防災・減災対策を推進

台風第19号による被災状況を国土交通大臣に説明

－ 国道144号鳴岩橋（嬬恋村）－

（令和元年11月）



鳴岩橋被災状況



堤防の緊急かさ上げにより水害リスクを軽減

（令和2年5月末）

利根川



県民の命と財産が守られます

神流川



子どもたちが守られます

B 安心を支える社会基盤整備！

感染症・災害への対応と最新の教育のため、100年先を見据えた投資を決断！

⑪ 「5つのゼロ宣言」で、SDGsのトップランナーへ

宣言1 自然災害による死者「ゼロ」

宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

宣言3 災害時の停電「ゼロ」

宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

宣言5 食品ロス「ゼロ」

災害に強く、持続可能な社会を
構築するとともに、県民の幸福度を向上！



<小泉進次郎環境大臣に『ぐんま5つのゼロ』を宣言>

C 新たな群馬の誇り育成！

県の魅力を再発見するブランディング戦略と、トップセールスによる情報発信をスタート！

⑫ 「ぐんま暮らし」ブランド化の強化

⑬ 県のクリエイティブ拠点化に向け、コンテンツ制作を誘致

⑭ 「ぐんまちゃん」の魅力を引き出すメディア戦略を展開

⑮ 知事自らのトップセールスで、群馬の見解を国内外に発信

⑯ オール群馬の情報発信拠点「tsulunos」を開設

C 新たな群馬の誇り育成！

県の魅力を再発見するブランディング戦略と、トップセールスによる情報発信をスタート！

⑫ 「ぐんま暮らし」ブランド化の強化

○ オールぐんま暮らし 「体験型移住フェア」開催

・ 知事によるトップセールスを実施



○ オンライン移住相談

・ 6 / 25 から開始



○ ふるさと回帰支援センターに全市町村が加入

C 新たな群馬の誇り育成！

県の魅力を再発見するブランディング戦略と、トップセールスによる情報発信をスタート！

⑬県のクリエイティブ拠点化に向け、コンテンツ制作を誘致

○ロケ誘致の強化

「ぐんまフィルムコミッション専用サイト」制作に着手

○ロケ誘致体制の拡充 (R元→R2)

予算 207千円 ➔ **3,305千円**

人員 1名(兼務) ➔ **4名(専任)**



昭和庁舎での撮影 ケイジとケンジ 所轄と地検の24時 (テレビ朝日)

C 新たな群馬の誇り育成！

県の魅力を再発見するブランディング戦略と、トップセールスによる情報発信をスタート！

⑭ 「ぐんまちゃん」の魅力を引き出すメディア戦略を展開

- 群馬の魅力や日々思うことをぐんまちゃんがSNSで発信



- ぐんまちゃんの魅力を世界中に発信するためアニメ制作に着手



- ぐんま広報での4コマ漫画掲載



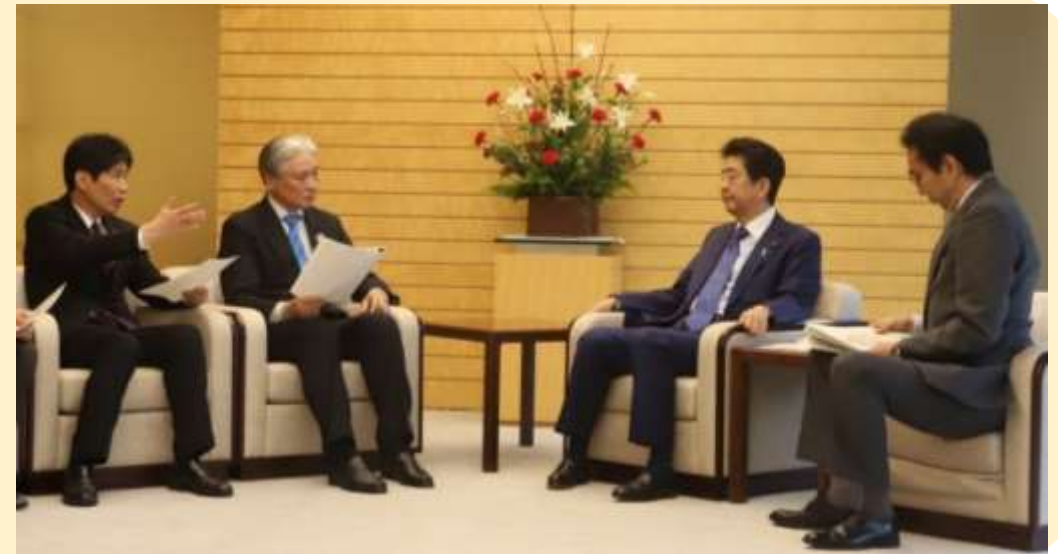
C 新たな群馬の誇り育成！

県の魅力を再発見するブランディング戦略と、トップセールスによる情報発信をスタート！

⑮知事自らのトップセールスで、群馬の見解を国内外に発信

○大臣へのトップ交渉

- ・ C S F 対策（安倍首相、江藤農林水産大臣）
- ・ 台風19号被害要望（赤羽国土交通大臣）
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策
（西村経済再生担当大臣、高市総務大臣、
加藤厚生労働大臣） など



○知事によるトップ外交

- ・ インディアナ州知事と会談
- ・ ベトナム訪問（副首相兼外相らと会談）



C 新たな群馬の誇り育成！

県の魅力を再発見するブランディング戦略と、トップセールスによる情報発信をスタート！

⑯オール群馬の情報発信拠点「tsulunos」を開設

- ・ 県庁32階に情報発信拠点「tsulunos」を開設
- ・ 職員自らが動画を作成し、YouTubeチャンネル「tsulunos」で配信

掲載本数(7/27)

455本



再生回数(7/27)

約56万回

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

⑰ 県庁DX（デジタル・トランスフォーメーション）で業務を効率化

⑱ 官民の垣根を取り払い、「共創」の体制を整備

⑲ 大規模組織再編で、県庁マネジメントのスピードをアップ

⑳ 暮らしに密着した「市町村」と県が、一体となって対策を展開

㉑ 群馬独自の「ウィズコロナ」/「ポストコロナ」を構想

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

⑰ 県庁DX（デジタル・トランスフォーメーション）で業務を効率化

○CDO（Chief Digital transformation Officer）設置

- ・デジタル技術による県政・県庁の業務プロセス改革・EBPM*の推進

*データ分析に基づく政策立案

○リモートワークの推進

- ・在宅勤務の導入
- ・電子決裁を原則化
- ・web会議の推進
- ・デスクトップPCをノートPCに更新



在宅勤務をする県庁職員



ノートPCを利用した業務

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

⑱官民の垣根を取り払い、「共創」の体制を整備

○**民間の知恵を活用**（企業管理者、政策アドバイザー、メディア戦略アドバイザー、CDOの登用）

○**新・総合計画策定懇談会**

○**総合計画（ビジョン）策定に向けた**

外部有識者ヒアリング

○**金融機関との連携強化**

（「ぐんまの未来共創宣言」による群馬銀行、東和銀行との連携強化等）



第4回外部有識者ヒアリング＜三浦瑠麗氏＞

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

⑱大規模組織再編で、県庁マネジメントのスピードをアップ

○政策決定プロセスのスピードアップ

政策立案や情報発信、トップセールスなどを戦略的・機動的に実施

- ・ ネットリテラシー推進条例（仮称）（発案から発表まで17日間）
- ・ 新型インフル等特措法改正要望（発案から大臣要望まで11日間）
- ・ 微博(Weibo)との協定（Weiboからの提案から締結まで4日間）
- ・ 愛郷ぐんまプロジェクト（最初の知事協議から予算成立、事業実施まで11日間）
- ・ 庁議（前年21回→39回、幹部職員との意思疎通を向上）



○デジタルトランスフォーメーション課の新設

- ・ オンライン相談窓口の開設、物資供給管理システムの立ち上げなど

○女性管理監督職の人数増加

207人 → 217人 (R元→R2)

うち部長 1名 → 3名

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

⑳暮らしに密着した「市町村」と県が、一体となって対策を展開

○市町村長との直接対話

- ・ CSF対策
- ・ 新型コロナウイルス感染防止を目的とした学校再開延期要請
- ・ 小・中学校 1人1台PC整備



○市長会、町村会の会議に積極参加

○「多文化共生・共創県ぐんま」を共同宣言



D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

②1 群馬独自の「ウィズコロナ」/「ポストコロナ」を構想

○ 自立分散型社会の実現を目指した総合計画の検討



第3回新・総合計画策定懇談会（オンライン）

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

②②あらゆる機会を捉え、知事から県民へ情報発信

②③県民を代表する「県議会」との真摯な議論

②④「改革＋創造」を旗印に、財政の見直しを熟慮・断行

②⑤「ガラス張りの県庁」を目指し、知事のガバナンスを強化

②⑥「自我作古チーム」「政策プレゼン」で、若手からボトムアップで政策を立案

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

②あらゆる機会を捉え、知事から県民へ情報発信

知事記者会見(81回(臨時含む)) 手話同時通訳・YouTubeでのライブ配信も実施



Ask知事! (2回)
第2回は群馬テレビでも中継

直滑降ストリーム(9回) 県政の現状や課題を発信



SNSを活用した情報発信 (知事・G-SNSチーム)

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

②③ 県民を代表する「県議会」との真摯な議論

○ 知事答弁の増加



第2回定例会 知事答弁割合
10% (R元)  45% (R2)

○ 県政懇談会

議長と知事の定例意見交換



E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

②④ 「改革＋創造」を旗印に、財政の見直しを熟慮・断行

○中期財政見通しの作成・公表 (R元10月)

行財政改革の必要性を明らかに

○事業の効果や展望を十分に議論の上、当初予算を編成

思い切った事業見直し等により財政の健全性を確保

財政調整基金	+	37億円	
事業見直し	-	13.6億円	
県債（通常債）発行額	-	164億円	ともに 3年ぶりの減
残高	-	4億円	

(いずれも前年比)

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

②⑤ 「ガラス張りの県庁」を目指し、知事のガバナンスを強化

○群馬モデルによる内部統制の導入

- ・ 内部統制推進・評価会議の設置
- ・ 財務、個人情報保護とともに、働きかけへの対応を県独自に対象として追加
- ・ 内部統制弁護士チームの設置



内部統制推進・評価会議

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

②⑥ 「自我作古チーム」「政策プレゼン」で、若手からボトムアップで政策を立案

○若手職員が新たな政策を提案する「自我作古チーム」、所属や役職にとらわれずに部局連携事業を提案する「政策プレゼン」により庁内議論や政策立案を活性化



自我作古チーム報告会

中高生の自転車安全対策、校庭の芝生化、オンライン移住相談窓口などを実際に予算化



政策プレゼン

フィルムコミッション活動支援、農泊推進など18項目を予算化